いのちと健康を守る活動

自主財源・石鹸作りとモデル薬草園事業が完了！　（PIHSと協働・WE21ジャパンみどり助成）

ブラコンの石鹸作りと各種研修

これまでも自家用に製造してきた薬草入り石鹸作りは、2015 年度はココヤシバージンオイルを使用するなどの改良を加えて、本格的に製造と販売を始めました。ヘルス組合活動の自主財源や組合員の収入向上が目的です。

今のところ、主な販路はPIHS支援エリア6地域のヘルスポスト向けですが、町のイベントなどでも販売しました。

従来のヤシ屋根材に加え、薬草石鹸販売収入で、ブラコンでは自前の資金で、識字教室、子どもの栄養改善のための給食を 3 回、応急手当の研修も 2 回実施することができました。

日本での広報・販売のため、スダチに似たカラマンシー入や、抗菌作用のある薬草マルンガイ入の石鹸、また、バニグ織ケース入りのもの等を仕入れました。ご関心ある方、お問い合わせ下さい。ご利用いただいて、品質改良の助言などお願いします。

バロンギスの薬草モデル農園

ここ数年、事業に含めて支援してきた奨学生を中心に、この地区の青年たちが、各種薬草を植えたモデル農園を完成させました。

ヘルスポスト常備薬の原料を確保するのが目的ですが、保健ボランティアの指導により、作業に集まった青年たちは、環境問題や青少年の薬物使用問題等の勉強会（写真左下）も実施しました。

バロンギスではすでに耕運機貸出事業が成功しています。薬草栽培とハーブ薬製造が成功すれば、ヘルス組合は、さらに安定した財源を得て、自前での活動の幅が広がると同時に、メンバーの収入向上も大いに期待できます。

自宅出産での危険を減らすために、PIHS 助産院の開設計画

自宅出産での新生児や母体のリスクを減らすために、私たちが2008年に支援したウファの研修所（写真）を、助産所に改修するという企画案が２月に届きました。

PIHSは、代表のナプサさんは看護師、姪のジェブジェブさんは現在研修医、また、元スタッフの助産師ハムシアさん等々、人的資源は豊富です。問題は助産所開設のための法的規制や施設の条件を満たす資金面を含めての準備です。

地域のヘルス組合がそれぞれ自主財源を持つようになった今、最後に残った課題は、ナプサさんや事務局専従スタッフ給与を含むPIHS自体の運営費の捻出です。2002年以来支え続けてきたPIHSの自立のために、今この助産所事業について、私たちに何ができるか、現地と計画の細部を詰めているところです。

－無医村の患者支援から始まった医療支援のこれから－

２月の「よこはま国際フォーラム2016」では、20年間の医療支援を報告しました。発足時の最大のニーズだった無医村での患者支援から始まり、PIHSと協働の、ムスリム地域で推進してきた保健ボランティア育成・ハーブ薬の活用・東洋療法の普及や、CMIPやPFPと協働の、山岳部の地域での湧水利用の簡易水道建設支援などによる病気予防等、具体例をあげ、多数の写真とともに説明しました。

現在、現地では厳しい干ばつで、特に貧困家庭が多い山岳部のCMIP 地域では、餓死者が出ないように、神父や教師、カレッジ卒業生等による食糧の配布が行われています。病気予防には、栄養教室や野菜作り奨励など、栄養面の指導が重要ですが、干ばつ時には、まずお腹を満たす食べ物を確保できるように、乾季でも実を付ける果樹やバナナ等の樹木作物栽培を含むアグロフォレストリーの普及が、命を救う広義の医療支援になると感じました。

参加者から、当団体の21年目以降の医療支援計画に対する質問などがありました。また、現地の医療系学生たちの支援を得るのはどうかという、インドネシアでの体験に基づく助言もいただきました。

（2月6月JICA横浜のフォーラムで）